

**「心が生きる教育のための国際拠点」グローバル COE 公開セミナー
「日韓メディア研究大学院生セミナー」
(グローバル COE ユニット B・公開セミナー)**

日時：2010年2月6日(金) 13:00~17:00

場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール III

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm

参加：入場無料、参加自由、報告・討議はすべて韓国語、日本語の通訳がつきます。

企画：佐藤卓己(京都大学大学院教育学研究科准教授)

司会：岡本昌己(西江大学大学院新聞放送学科博士課程) 赤上裕幸(京都大学大学院教育学研究科博士課程)

13:00 挨拶

辻本雅史(京都大学大学院教育学研究科教授)

元容 鎮(西江大学大学院新聞放送学科教授)

13:10-15:00 第1部・西江大学側報告(各報告後にフロアーを含む質疑応答)

①パク・タジョン(新聞放送学科言論情報専攻)「植民地時代のヤダム(韓国の漫才)」

②パク・ケヒョン&ノ・ヒョンシン(新聞放送学科ヘルスコミュニケーション専攻)「新種インフルエンザのメッセージに対する心理的反発と恐怖感が行動に与える影響」

③クオン・エヂ&ヤン・ミンギョン(新聞放送学科言論情報専攻)「適応的構造化理論(AST)を通じて見たブログとミニホームページ利用者の利用形態および認識変化」

15:00-15:10 休憩

15:10-17:00 第2部・京都大学側報告(各報告後にフロアーを含む質疑応答)

①白戸健一郎(生涯教育学講座)「中国東北部(旧満洲)における日本のメディア文化政策研究序説」

②松永智子(生涯教育学講座)「戦前期 Japan Times におけるナショナリズムとリベラリズム」

③塩原佳典(教育学講座)「近代日本黎明期の学校と地域のメディア環境」

④河井 亨(高等教育開発論講座)「充実した学生生活と学習」

連絡先：京都大学大学院教育学研究科・佐藤卓己宛てメール tsato@educ.kyoto-u.ac.jp

「メディア研究大学院生日韓セミナー」趣意書

近年、「東アジア共同体」の重要性が指摘される中で、隣国・韓国のメディア・コミュニケーション研究者との学術交流は、国際的な文化発信の第一歩としても非常に有意義なものである。本企画は、韓国・西江大学大学院新聞放送学科と京都大学大学院教育学研究科の大学院生（若手メディア研究者）の学術交流を目的として行われる。西江大学はコミュニケーション学部新聞放送学科、言論大学院、情報通信大学院などを擁する韓国屈指のメディア研究拠点である。2009年2月に京都大学大学院教育学研究科 GP 企画として「メディア教育と文化政策の日韓比較」と題するシンポジウムをソウル西江大学キャンパスにて実施した。

日韓両国の大学院生が主体的にセミナー運営に携わることで、国際感覚の養成し、自らの研究成果を国際的に発信していく能力の向上につなげることが目的とされた。そのため、計画と運営を大学院生自身がすべて行ったが、西江大学側でも好評のため今年と同形式の合同セミナーを京都大学で開催する運びとなった。

今年度は韓国側は言論情報専攻のみならずヘルスコミュニケーション専攻の院生も加わり、日本側も生涯教育学講座（メディア論）のみならず教育学講座（教育史）、高等教育開発論の院生も発表に加わることとなった。言語の壁のみならず、研究領域を超えた国際交流を深めることは、次世代の研究にとって貴重な経験となることを確信している。